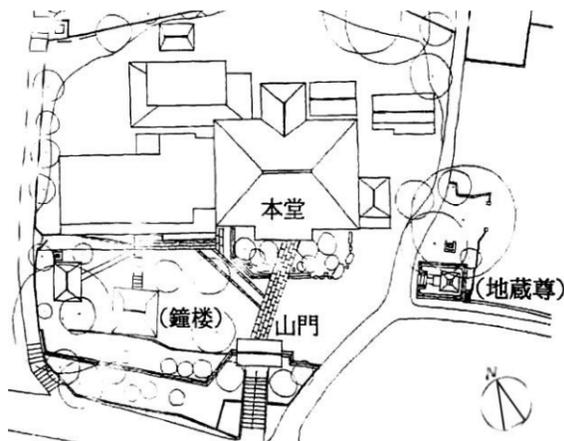


保土ヶ谷宿“ほっと”なお話(その4)「大仙寺(本堂と山門)」

大仙寺は西方山安樹院の号を持つ、真言宗の寺院です。本堂は、前後2列・左右3列の6室を基本に、その正側面に庇を設け、正面庇はやや幅広くとって広縁とした客殿形式の仏堂です。寺伝によると建築年代は元禄14(1701)年とされています。本堂の外観は後世の改変が認められ幕末～近代の姿を示すものの、堂内の主要部は柱・長押・欄間などは古風で住宅風の落ち着いた風情をとどめ、近世の客殿型仏堂の雰囲気をよく示しています。



境内平面図(『横浜市の近世社寺建築 Ⅱ寺院編』平成3年)

また、かつては旧東海道に面して大門を有していたようです。大門跡地付近から望む大仙寺境内は、かつての保土ヶ谷を偲ぶ景観としても大変貴重な資源となっています。



大仙寺本堂

鐘楼

大仙寺山門は、切妻造・棧瓦葺屋根を持つ四脚門となっています。四脚門とは、中央に親柱と呼ぶ太い柱を2本立て、親柱間に扉を構え、親柱の前後に控柱を立てて構成している門形式で、柱総数は6本となっています。山門は部分的に後世の改修が認められますが、軸部・組物・架構などの主要構造部は当初部材と形式をよく留めています。中央の架構形式と装飾要素が多い点が特に注目に値します。



大仙寺山門背面全景

山門中央の架構

山門西側の妻面

山門を見上げる

今年度検討内容と今後のスケジュール(予定)

	H25年度	H26年度以降
整備計画策定 (市民参加等による検討)	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹の検討 歩行者案内板の検討 歴史解説板の検討 道路の維持管理方法の検討 等 	
道路設計		

※上記スケジュールはあくまで予定であり、決定したものではありません。

発行：横浜市道路局建設課 担当：周治、松本、雨宮
 問合せ先：(電話番号) 045-671-3542 (FAX) 045-663-8993
 ホームページ：道路局建設課(一般国道1号(保土ヶ谷橋工区))
<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/kensetsu/r1/hodogayabashi/>
 編集協力：横浜市都市整備局都市デザイン室、保土ヶ谷区政推進課

「宿場よりみち会」として、活動を進めていきます!

◆(仮称)みちづくりの会を「宿場よりみち会」として決定しました◆

6月21日に開催した第1回ワークショップにて、参加者でアイデアを出し合い、会の名称を「宿場よりみち会」としました。地域の方も、まち歩きをしている観光客の方も気軽に、寄り道するように保土ヶ谷宿を楽しんでもらえるための活動をしていきたいとの思いが込められています。

これまでに2回のワークショップを開催してきました(第1回と第2回に出された意見概要は裏面参照)。引き続き、ワークショップ形式でサインや来年度以降のみちづくり活動について検討していきたいと考えています。

◆ワークショップの様子と今後の予定

6月21日(金) 第1回 主旨・進め方等の説明と植栽計画、会の名称について



・模型を見ている

・街路樹について議論しました

・グループ毎に発表しました

7月6日(土) 第2回 サイン見て歩き(まちあるき)



・サインの見て歩きました

・グループ別に見て歩きました

・全体で意見交換も行いました

9月30日(月) 第3回 サイン配置計画とサインデザインイメージ

11月13日(水) 第4回 サインデザイン案、整備計画タタキ台、市民参加について

1月中下旬 第5回 今後の市民参加と整備計画案について

※今後の開催日程と開催内容は予定であり、変更となる場合があります。

第1回(街路樹)及び第2回(サイン・みちづくり)のワークショップで出された主な意見・提案

第1回は主に街路樹、第2回は主にサインの配置について、意見交換を行いました。その他にも、みちづくりに関する議論を行いました。第3回以降は、サインのデザインや来年度以降のみちづくり活動等について議論する予定でいます。

みちづくり全体の方向性

- ・地域のため、観光客のため、両方の視点とバランスが大事です
- ・面白い道、歴史を味わう道にしたい

歩くことを考えたみちづくり

- お休み処、会議スペース
- ・地元の会議や情報の拠点がほしい
- ・お休み処や会議の場を確保したい

●自転車への対応

- ・歩行者と自転車が安心できるみちにしたい
- ・自転車の取扱いの決め事をつくりたい

歴史資源・観光資源

- ・今井川も魅力的
- ・目印となっている本陣はやはり重要だと思う
- ・保土ヶ谷橋は地域の財産です
- ・踏切も観光名所のひとつ。JRで最も古い鉄柱も建っている
- ・伊能忠敬が宿泊した旅籠(大金子屋、桔梗屋)があった 等

街路樹についての主な意見・提案

※街路樹は沿道住民の方のご意見も聞きながら樹木を選定していきたいと考えております。

選定の考え方について

街路樹の大事な役割と機能

- ・実用性(日陰を作る・枯れにくい等)が重要
- ・街路樹による景観づくりも大事
- ・防火帯になる樹木がよい
- ・道路の幅を考えた樹木の植え方とする 等

季節や潤いを感じるみちづくり

- ・保土ヶ谷の気候に合った植栽とする
- ・季節感を演出するために混合・複数種はあってもよい
- ・シンボル街路樹を設定してはどうか 等

維持管理等の課題について

日常や将来に渡る維持管理の検討が必要

- ・後の手入れを考えておくことが大事になる
- ・植樹ますの管理と利用を考える
- ・日常のメンテナンスが大切になる 等



イチョウ



ナンキンハゼ



トウカエデ



ハクモクレン



ヤマボウシ



ナナカマド



アキニレ



センダン
意見交換の参考とした樹種等

沿道住民・歩行者等への配慮

- ・沿道に住む人の事に配慮する
- ・歩行者、自動車利用者、自転車通行の視点も配慮する
- ・実がなる樹は維持管理が大変
- ・ヘッドライトを遮断できる低木・樹木が良い 等

今ある松を活かしたみちづくり

- ・松は日陰をつくり、邪魔にならず、排気ガスに強い
- ・宿内に松並木を広げたい
- ・松の管理は大変(害虫やコモ卷、枝切り等)
- ・松並木の管理は、自分たちの松である意識がわく 等

イベントや地域活動のしやすい街路樹

- ・歩行者に優しい街路樹にすべき
- ・落葉樹は清掃等が大変なため常緑樹がよい
- ・虫害が少ない木にする必要がある
- ・低木は管理が重要になる 等

宿場らしい歴史的なみちの雰囲気づくり

- ・元々、宿内には大樹はなかった
- ・宿場らしさ、保土ヶ谷らしさを考える
- ・歴史に沿った樹種とし、外来種ではなく日本固有のものが良い 等

サインについての主な意見・提案

表記の工夫について

配置・見やすさ

- ・大きい字でわかりやすく 等

表示内容

- ・元号と西暦の両方を入れる
- ・外国人観光客のために英語表記も必要
- ・QRコードによる解説 等

デザイン

- ・統一感(大きさ、配色、シンボルカラー)の創出
- ・高札場の様に屋根があった方がよい
- ・みちづくりのシンボルマーク、ロゴ(新規)の作成 等

重要なサインについて

残したいサイン

- ・保土ヶ谷宿400倶楽部防作作成した銅板サインを磨き、残してほしい。移転後の取付位置と管理を考慮する必要がある
- ・本陣の石碑を残してほしい
- ・本陣の門もサイン的役割を果たしていると思う

新たに欲しいサインについて

施設表示

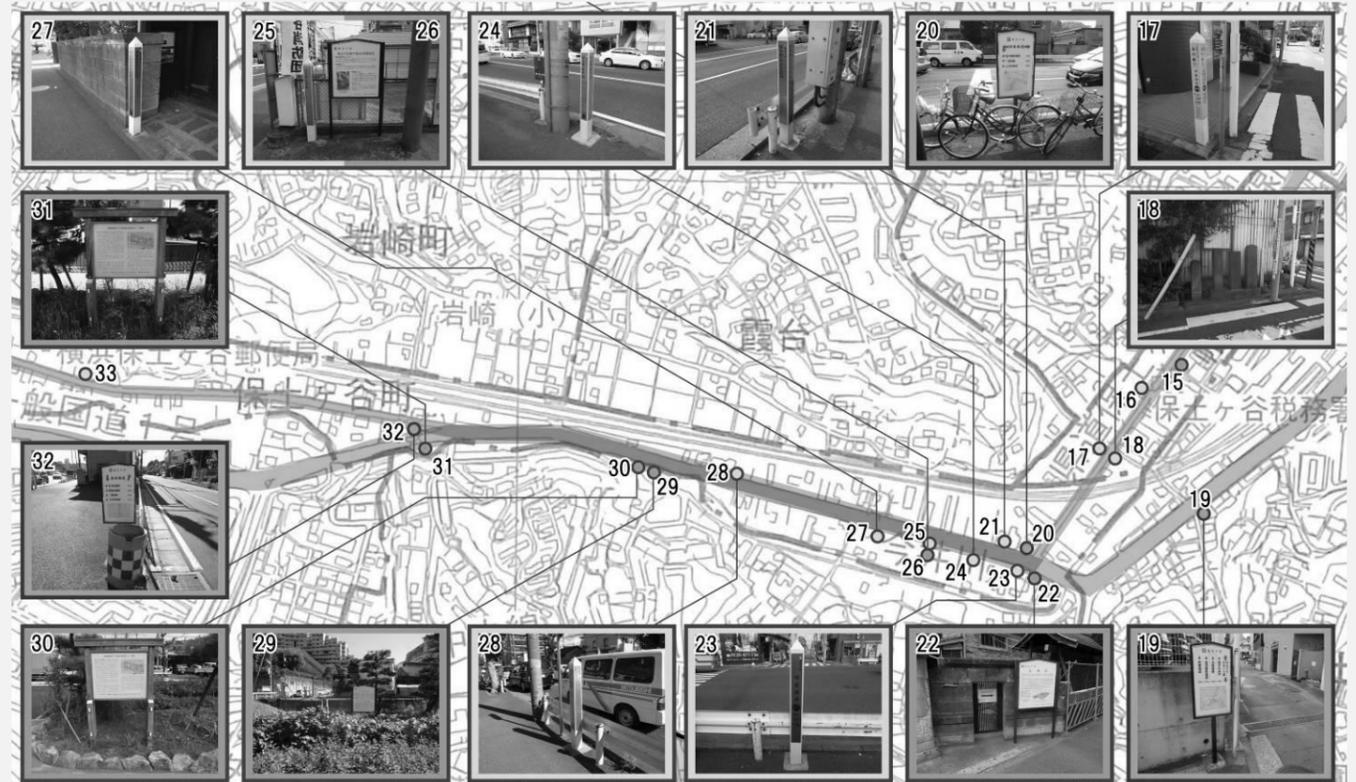
- ・大仙寺の案内板(前は石碑があった)
- ・江戸以外(例えば、近代)の歴史表示板(保土ヶ谷橋や保土ヶ谷文化(映画館))
- ・外川神社の案内板

歴史解説

- ・大仙寺本堂と大仙寺山門の解説板
- ・伊能忠敬が宿泊した旅籠(大金子屋、桔梗屋)
- ・松並木の植え込みに解説板
- ・常夜灯の解説板

案内・指示

- ・路面表示の工夫で旧道を表現
- ・利用可能なトイレを示すサインがあると便利
- ・両見附に宿内のサイン配置図の設置
- ・史跡がない区間でも情報サイン設置
- ・各敷地で旧屋号と立面のサイン表示



歩行者案内サイン、歴史解説板の現況